

かがやき学級 生活単元学習 指導案

日時：令和6年11月26日（火）第5校時

場所：かがやき教室

授業者：

1. 題材名「学んだことを伝え合おう」

2. 指導観

(1) 題材について

本題材は、個人が学習したことをかがやき学級の仲間へ伝え合おうという参加型学習発表会である。1年生は漢字、4年は都道府県、5年は世界の国、外国語、6年は修学旅行について学んだことをクイズやカルタ形式にして伝え合う活動をする。仲間と楽しく伝わるような工夫をして堂々と話したり、楽しみながら仲間の発表を聞いたり活動に参加することを願っている。仲間が自分の発表を見たり聞いたりしてくれる体験をすることで、伝わることの喜びを感じたり、自信をつけたりすることが大きなねらいである。すべての学習の内容理解は難しいので、個人の実態に合わせて意欲的に活動できることに重きをおいている。

(2) 児童の実態について

1年男児、4年女児、5年女児2名、6年男児2名、6名である。学力はそれぞれであるが、仲間と活動することは好きであり、特にかがやき学級の中では、学年、男女関係なく安心して意見を言ったり、感情を表したりすることができている。できないことや分からないことがあり困っている仲間がいると進んで助けることができる児童もいる。

3. 研究内容に関わって

【研究内容Ⅰ(3)Ⅱ(2)】

他学年の子に学習したことを個に応じた方法で伝え、仲間へ伝えてもらうことで喜びを感じ、主体的に学ぶ子の育成につながると考えた。

4. 題材構成図 (指導計画) (裏面)

5. 本時のねらい

学んだことを仲間に分かりやすく伝えよう。仲間の発表を聞いてよさを見つけよう。(国語、社会、外国語、道徳)

6. 本時の展開 (/6)

導 入	学 習 活 動	指導上の手立て・留意点・支援等						
		1年 A 児	4年B児	5年C児	5年D児	6年E児	6年F児	
展 開	1本時の学習内容を知り、自分のめあてを確認する。 ☆仲間の発表のよさを見つけることは全員のためとする。	仲間と伝え合おう。						
		・はずかしがらず	・はずかしがらず	・はっきりと	・声の大きさ	・はっきりと	・はっきりと	
開	2. 修学旅行カルタをする。(F児) ・修学旅行で見学した場所について説明をし、他の児童の説明を聞いて札を取る。	・初めの平仮名を聞いて、札を取る。 ☆始点の位置 終点 (止めるのか、はらうのか、はねるのか) を書く前に意識するよう声をかける。	・説明や初めの平仮名を聞いて札を取る。 ☆分からなかった時 もう一度やってくださいと言えたら認める。	☆説明を聞いて写真を見るよう声をかける。 ・筆の動きを見て、字を予想し答える。	☆説明に理解できない言葉があれば補足説明する。 ・筆の動きを見て、字を予想し答える。	☆はきはきと説明できたら認める。 ・筆の動きを見て、字を予想し答える。	☆はきはきと説明できたら認める。 ☆すぐに分かっても声に出さないように声をかける。	
	3. 平仮名クイズ (A児) ・空書きし、何という平仮名を書いたか当ててもらおう。	☆仲間にも聞いてよいことにする。	・はずかしがらずに説明したり、正解です等と言えたりしたら認める。	・都道府県の場所を指し、地方や県庁所在地が言えれば答える。	・都道府県の場所を指し、地方や県庁所在地が言えれば答える。困っていたらA児にヒントを出す。	・都道府県の場所を指し、地方や県庁所在地が言えれば答える。困っていたらA児にヒントを出す。	・都道府県の場所を指し、地方や県庁所在地が言えれば答える。必要ならA児にヒントを出す。	
開	4. 都道府県クイズ (B児) ・都道府県の説明をし、場所、地方、県庁所在地を当ててもらおう。	・ヒントからポルトガル語を予想する。	・ヒントからポルトガル語を予想する。	☆ヒントが伝わりにくければ他のヒントを出すよう声をかける。	☆答えが外れても意欲的に答えようとしていけば認める。	・ヒントからポルトガル語を予想し、積極的に予想する。	☆自分ばかり答えられないよう声をかける。	
	5. ポルトガル語クイズ (C児) ・ポルトガル語を話し、何と言ったか当ててもらおう。	・カタカナを読んで、国旗を見つけよう。	・カタカナを読んで、国旗を見つけよう。	・地図帳を見て、国旗、場所を当てる。困っていればAB児にヒントを出す。	・タブレットを使って世界の国のクイズを出し、国旗、場所を当ててもらおう。	・地図帳を見て、国旗、場所を当てる。どの大陸にあるかヒントをもらおう。困っていればAB児にヒントを出す。	・地図帳を見て、国旗、場所を当てる。分かったら仲間へヒントを出す。	
終 末	6. 世界の国クイズ (D児) ・世界の国について特徴を説明し、国旗、場所を当ててもらおう。	・はきはき問題が出せた。答えてくれてうれしかった。 ・修学旅行に行った場所が分かった。 ・またやりたい。						
	7 学習のまとめをする。 ・自己評価、仲間のよさやがんばりを見つけ、本時を振り返る。 ・次時への見通しをもつ。							

個々の児童の実態、具体的な支援の内容、本時願う姿

	実 態	目標、願う姿	具体的な支援の内容・方法
A 児 1年男 児	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や漢字の習得に時間がかかる。 ・学習も含め、どんなことにも興味はあるが、気がそれやすく関係のないことをしゃべってしまったりして、集中は長くは続かない。 ・身体の使い方はぎこちない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習った平仮名を始点の場所、終点に気をつけ、正しい書き順で伝えようといえることができる。 ・興味をもって仲間の発表を聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1画目の赤色に注目させ、正しく書き始めるようにする。 ・止めは「ぴたっ」はねは「ピンッ」はらいは「すうっ」と教師が声に出し、意識して書けるようにする。
B 児 4年 女児	<ul style="list-style-type: none"> ・学習全般に自信がなく、考えたことを発表したり質問したりすることができないことが多い。 ・はっきりと正解が分かっていたり、見通しをもってたりすると自信をもって活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた都道府県について、分かったこと、名前、位置、県庁所在地、地方について自信をもって、伝えることができる。 ・仲間の発表について、考えたことを、はずかしからずに発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたことを、資料を見ながらクイズを出し、自信をもって伝えられるようにする。 ・間違えても発表できたり、質問できたりしたら、はっきりと認める。
C 児 5年 女児	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の習得が十分ではなく(ブラジル籍)、相手の伝えようとしていることを理解したり、自分の意思を伝えたりすることが、複雑になると難しい。 ・他者に関心が薄く、うまく仲間とのコミュニケーションが取れなかったり、場の空気が読めなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル語を自信をもって仲間に伝えることができる。 ・仲間の発表について意欲をもって聞き、楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって話せたら認める。仲間が分からない時にどんなヒントを出せばよいか事前に考えておき、場の雰囲気を見てヒントが出せるように、必要なら声をかける。 ・仲間の発表に拍手をしたり、意欲的に答えたりすることができたら認める。
D 児 5年 女児	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と活動する時には自分が中心になってやろうという意欲が高い。 ・他人はできるのに自分ができないことや、勝負に負けることも受け入れられるようになりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の名前、国旗、特色、位置を、自信をもって仲間に伝えることができる。 ・分からなくてもイライラせずに、楽しんだり、仲間の発表から学んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって話せたら認める。 ・仲間の発表が分からない時でも素直に尋ねたり、分からないことをイライラしないで受け入れることができたら認める。
E 児 6年 男児	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験はあり会話は不自由なくできるが、じっくりと考えたり、集中して聞いたり、文字を読んだりすることは大変苦手である。 ・他人に関心は高く、温かい気持ちをもって行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行でしに残ったことについて、はきはきと仲間に伝えることができる。 ・都道府県や国が分からなくてもイライラせずに探したり、仲間のことを考えた言動をしたりして、会を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はきはきと話せたら認める。 ・仲間のことを考えた言動があればすぐに認め、価値付ける。
F 児 6年 男児	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力が続かない、語彙が豊富ではない、記憶力も高くないため、学習全般に苦手意識は高い。 ・できないことにあきらめることが多く、助けを求めることが得意ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行でしに残ったことについて、自信をもって仲間に伝えることができる。 ・分からないことがあってもあきらめたり、投げやりになったりせずに、できることに取り組み、仲間の発表を聞いたり見たりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって話せたら認める。 ・クイズに答えられなかったり、間違えたりしても大丈夫であることを全体に伝える。 ・仲間の発表に対して、よさを認めるような発言や、助けようとする言動があれば認める。

4. 単元指導計画

「学んだことを仲間に伝え合おう」 6 / 7

- ・学級の仲間に伝えたい内容、方法を決め、準備をする。・・・3時間
- ・伝える練習をする。・・・2時間
- ・学んだことを仲間に伝え合おう。・・・2時間 (本時)